

農学分野の優れた研究をたたえる第55回「読売農学賞」の受賞者に
当社顧問 松井博和(北海道大学名誉教授)が選ばれました。

第55回読売農学賞

まつい ひろかず
松井 博和さん 68
北海道大学名誉教授



「オリゴ糖生産酵素
の基盤的研究」

砂糖代わりの甘味料として健康食品などに使われる「オリゴ糖」は、腸内の善玉菌を増やし、便秘解消に役立つなど様々な生理機能を持つことで知られる。

オリゴ糖に関する研究に40年近く携わり、効率よく生産する技術を開発した。日本初のオリゴ糖入り粉ミルクの製品化にも寄与した。

北海道上富良野町の稲作農家に生まれ、「農学の発展に貢献したい」と、

オリゴ糖食品に貢献

北海道大に進んだ。研究の傍ら、2005年には、全国で初めて制定された遺伝子組み換え作物の栽培を規制する北海道独自の条例を、策定

部会の部会長としてとりまとめた。

科学や学問の魅力を伝える一般向けの講演も精力的に行っている。こうした活動が「基礎研究から科学知識の普及啓発まで幅広く取り組んだ真の農学者」と学会で高く評価された。

北大(旧札幌農学校)出身の教育者で、かつて5千円札の肖像にもなった新渡戸稲造を尊敬する。国際連盟事務次長を務めた新渡戸は「我、太平洋の懸け橋とならん」と言った。「受賞を励みに大先輩に100分の1でも近づきたい。大学と一般社会の懸け橋になりたい」と意欲を語る。

(2018年3月22日 読売新聞 特別面記事)